平成 25 年度（2013 年度）

教科目名　プログラミング基礎Ⅱ　(Basic Programming Processing II)

学科名・学年　：　情報工学科　2 年
単位数など　：　必修　2 単位　（前期 2 コマ，授業時間 40.5 時間）
担当教員　：　鷺　浩二

授業の概要

本授業では，C 言語のプログラミング技術について学ぶ．大きなプログラムの作成を C 言語で行える方法を習得し，各自がプログラムを作成することにより，ソフトウェア開発力を養う．授業は，講義と演習をセットで実施し，講義で習った内容についての演習・自宅課題を行うことにより実践的に理解する．

達成目標と評価方法　　**大分高専目標(B2)**

(1) C 言語における文法とプログラミングの流れを説明できる（定期試験と自宅課題・小テスト）
(2) C 言語の命令を組み合わせて，複雑なプログラムを作成できる（定期試験と自宅課題・小テスト）
(3) 他の人の書いたプログラムの処理の内容を理解し，可読性の高いプログラムを作成ができる(定期試験と自宅課題･小テスト)
(4) プログラムを計画し，自主的かつ継続的に作成できる（総合演習・レポート）

回	授業項目	内容	理解度の自己点検
1	1 年次の復習	○　入出力，分岐，反復，配列など C 言語の基本の復習	【理解の度合い】
2 ｜ 3	ポインタ	○　アドレスとポインタの関係，配列とポインタの違い ○　関数におけるポインタの利用	
4 ｜ 5	文字列	○　文字列とポインタの関係，文字列の使い方	
6	構造体と共用体	○　構造体，共用体の宣言，メンバの参照および構 造体配列の理解	
7	ファイル処理	○　ファイルへのデータ入出力	
8	前期中間試験		【試験の点数】　　点
9 ｜ 10	前期中間試験の解答と解説 グラフィックス処理	○　Borland C の簡単なグラフィック処理について学ぶ	【理解の度合い】
11 ｜ 13	総合演習（C 言語のまとめ） プログラムの構想 プログラムの実装 フレゼンテーションの基礎	○　1 年間学んできたＣ言語のコマンドを用いて，少し大きなプログラムを計画し，作成する	
14	発表・審査会	○ 作成したプログラムの概略を発表する	

履修上の注意	(1) 積極的に取り組む　質問はいつでも受け付ける (2) 作業着（上着）を着用する (3) 自宅課題を次の授業の初めに提出する (4) 小テストは必ず提出し,指示された要件を満たす (5) 配布された小テスト・プリントを綴じるファイルを準備する (6) 流れ図作成用のテンプレートを持参する	【総合達成度】
教科書	荒木，久保，小矢，「基礎から学ぶＣプログラミング」，共立出版	
参考図書	石田，後藤，高田，中島，「入門ＡＮＳＩ-C（三訂版)」，実教出版 情報工学科，「実験・演習マニュアル」実験演習時間に配布済 ※Ｃ言語の本は図書館に各種所蔵しているので適宜参考にする	
自学上の注意	授業の内容をその日のうちに理解するように，復習が大切である．授業の後に教科書や授業ノート，配布プリントをよく読み返すようにする	
関連科目	プログラミング基礎Ⅰ・Ⅲ	【総合評価】　　点
総合評価	総合評価は，達成目標の(1)～(4)について定期試験と課題で評価する． 総合評価(100 点）＝定期試験（30 点）＋総合演習（プログラム：30 点，発表レポート 10 点）＋自宅課題･小テスト（30 点） 単位取得条件は，総合評価が 60 点以上とする．なお，再試験の受験資格は，自宅課題・を全て提出した者に与える．また，「レポート」の評価項目詳細は，「実験・演習マニュアル」に定める．	